



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

2. シキミの挿し木繁殖用優良母樹「Y-1」と「Y-10」の選抜

[要約]

シキミの挿し木繁殖に適した優良母樹を2系統選抜した。これら2系統は切り枝品質が良好で挿し木繁殖能力が高く、切り枝の生産性が高い。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

シキミの生産においては優良種苗の確保が重要なポイントであるが、種子繁殖では形質のばらつきが大きい。そこで、挿し木繁殖による優良種苗の生産を目的に、岡山県内で自生または栽培している樹の中から、切り枝品質が良好で挿し木繁殖能力が高く、生産性が高い優良母樹を選抜する。

[成果の内容・特徴]

1. 選抜系統は葉の形状が長楕円形（葉長約8cm、葉幅約3cm）の中庸立葉で、葉色が濃い。また、草姿が立性で節間が短いことから切り枝品質が良好である（図2）。
2. 選抜系統は発根率が高く、挿し木繁殖能力が高い（図1）。
3. 挿し木苗は全般に定植後の初期生育が緩慢で夏季高温時には株枯れも見られたが、選抜系統は定植3年目には草丈60cm以上になり、側枝の生育が旺盛で立性のため、良質な切り枝の生産性が高い（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 赤磐市の露地圃場で栽培したデータである。
2. 挿し木方法として、6月下旬に充実した枝を採枝して先端部分10cmを穂木として下葉を除去し、水揚げ後に切り口をオキシベロン原液に瞬間浸漬した後、ピートモスとパーライトの同量混合培地に5cmの深さで天挿してミスト灌水の80%遮光下で管理した。
3. 挿し木苗は定植後の初期生育が緩慢で、特に夏季高温時は株が枯死しやすいことから、夏季高温時には定植床の1.8m高に遮光資材を平張りし、適時灌水管理する。
4. 年に数回の新梢伸長を繰り返し、新梢伸長期には水揚げが劣り商品性が低下する。新梢伸長期には年次変動があることから、消費の多い盆や秋の彼岸の商品化率が低下することがある。
5. 選抜系統はジーンバンクに登録し、挿し木繁殖用母樹として活用する。



[具体的データ]

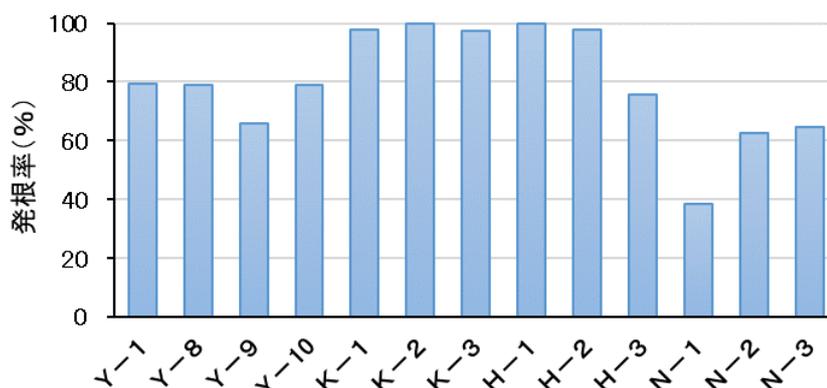


図1 シキミ採集系統の発根率

表1 シキミ採集系統の定植3年目の生育^z

採集場所	系統番号	生存株率 (%)		草丈 (cm)	側枝数 ^y (本/株)	最長側枝 (cm)	特徴	判定 ^x
		①	②					
井原市	Y-1	100.0	62.5	86.4	3.6	68.4	茎太、濃色、立性	○
	Y-8	100.0	100.0	64.8	0.6	58.1	茎細、葉辺退色、開帳性	×
	Y-10	93.8	93.8	67.6	1.1	61.1	茎太、濃色、立性	○
津山市	K-1	75.0	62.5	41.9	0.1	38.6	茎中、やや濃色、開帳性	×
	K-2	87.5	50.0	59.4	0.5	54.8	生育不良、濃色、立性	△
備前市	H-1	100.0	81.3	49.6	0.3	45.2	茎細、やや濃色、立性	×
	H-2	50.0	25.0	41.3	0.0	32.8	生育不良、開帳性	×

^z 2020年7月21日定植、定植数16株。生存株率①は2021年2月3日調査、その他の項目は2022年11月28日調査

^y 60cm以上の側枝数

^x判定は○優良、△再検討、×廃棄とした



図2 選抜系統の草姿(定植3年目)

左「Y-1」、右「Y-10」

[その他]

研究課題名：特産花き新品種の育成

予算区分・研究期間：県単・平30年度～継続

研究担当者：土居典秀